

県議会 強制連行追悼碑の設置許可 取り消しの請願決定

県立公園「群馬の森」(高崎市)にある韓国・朝鮮人の強制連行追悼碑をめぐる、碑を管理する市民団体が、別の市民団体が県に設置許可の取り消しを求めている請願三件

たのは遺憾」と述べた。反対討論では、リベラル群馬の黒沢孝行県議が「一日中、日韓関係が良くないときに、群馬の地から火に油を注ぐべきではない」と指摘。共産の伊藤祐司県議は「朝鮮人に過酷な労働を強いたのは歴史的事実」と述べた。

閉会后、大沢正明知事は報道陣に「追悼碑は公園に本来にあるべき施設かどうか、問題はある。公園は県民の憩いの場であってはいけない」と語った。碑は二〇〇四年に設置され、「記憶 反省」として友好の追悼碑を守る会(前橋市)が管理。県は碑の前の追悼集会で一部の参列者が政治的な発言をしたとみて、一月末の設置期限後も設置許可の更新を保留している。請願は市民団体「新しい日本を考える群馬の会」(富岡市)などが提出し、九日の常任委員会が採択、一件が一部採択となっていた。(菅原洋)

追悼碑取り消し 請願採択を決定

県議会

県議会は16日、本会議を開き、244億9900万円を増額する本年度一般会計補正予算案など20議案を可決、閉会した。県立公園群馬の森(高崎市)に市民団体が設立した追悼碑の設置許可の取り消しを求める請願3件については採択と

した委員会判断を、自民、新星会、公明の賛成多数で決定した。

採決に先立つ討論では、追悼碑をめぐる請願について、自民の橋爪洋介議員が賛成の立場から「(政治的利用をしないとの)条件を反故にされたことは誠に遺憾で残念」とした。一方、伊藤祐司議員(共産)と黒沢孝行議員(リベラル)は反対討論を行い、「近隣諸国といがみ合い、世界から孤立するようないことに県議会が手を貸すのを認めるわけにいかない」と不採択を主張した。

閉会后、大沢正明知事は記者団に対し、「県民の憩いの場であるはずの公園が政争の具となるようなことがあってはいけない」とした上で、「そういうものが公園にあるべき施設なのかは問題がある」との考えを示し、請願の決定を受けて早急に判断する考えを強調した。